OpenText™ Fortify on Demand

リリース ノート （26.3.0）

Version : 26.3

PDF Generated on : August 14, 2026

Table of Contents

1. リリース ノート （26.3.0）

このドキュメントでは、OpenText™ Fortify on Demand (FoD) リリース 26.3.0 に適用される新機能、インストールとアップグレードの注意事項、既知の問題、および回避策について説明します。
この情報は、製品ドキュメントの他の場所では入手できません。この製品のユーザー ガイドは、製品ドキュメントの Web サイトで入手できます。
OpenText Fortify on Demand (FoD) - ドキュメント | Micro Focus

1.1. Fortify 製品名の変更

OpenText では、以下の製品名を変更中です。

以前の名前	新しい名前
OpenText™ Static Application Security Testing (OpenText SAST)	OpenText™ Fortify SAST
Fortify Software Security Center	OpenText™ Application Security
Fortify WebInspect	OpenText™ Dynamic Application Security Testing (OpenText FortifyDAST)
OpenText™ Core Application Security	OpenText™ Fortify on Demand
OpenText™ Core Software Composition Analysis (OpenText Core SCA)	OpenText™ Fortify Software Composition Analysis (OpenText Fortify SCA)
OpenText™ Application Security Aviator	OpenText™ Fortify Remediation Aviator
Fortify Applications and Tools	OpenText™ Application Security Tools

製品のスプラッシュ ページ、マストヘッド、ログイン ページ、および製品が表示されるその他の場所で製品名が変更されています。名前の変更は、製品の機能を明確にし、Fortify Software 製品を OpenText と合わせることを目的としています。ドキュメントのタイトル ページなど、場合によっては、古い名前が括弧で囲んで示されることもあります。今後の製品リリースでは、さらに多くの変更が行われる見込みです。

1.2. エンジンとルールパックの更新

OpenText Fortify on Demand 26.3.0 には、次のバージョンのエンジンとルールパックが含まれています。

- **Fortify Software Security Content 26.2.0:**
  OpenText Fortify on Demand の Fortify Software Security Content 26.2を実装します。詳細については、「OpenText Application Security Content (Fortify) アップデート 26.2」を参照してください。
- **OpenText Static Application Security Test 26.1.0:**
  OpenText Fortify on Demand は OpenText SAST (Fortify Static Code Analyzer) バージョン 26.2 を実装しています。
- **OpenText Dynamic Application Security Test (DAST) 26.2:**
  OpenText Fortify on Demand は、動的アプリケーション スキャン用に OpenText Dynamic Application Security Testing バージョン 26.2 を実装しています。

1.3. 新機能

自動スケーリング スキャナー アーキテクチャの導入

Fortify on Demand に、クラウドネイティブな自動スケーリング スキャナー アーキテクチャが導入されました。これにより、需要に基づいてスキャン リソースを動的に調整し、ワークロードのオーケストレーションを改善し、自動復旧機能によってスキャンの信頼性を向上させます。

コア アーキテクチャの完成に伴い、顧客をグループごと管理し、ロールアウトを段階的に進めています。SAST ワークロードに焦点を当てたフェーズ 1 では、以下がサポートされます。
- .NET および .NET Framework アプリケーションを除く ScanCentral パッケージのペイロード
- JavaScript (JS)、TypeScript (TS)、HTML、および Infrastructure as Code (IaC) 用の ScanCentral パッケージ以外のペイロード

資格のある顧客は、スキャンの安定性向上、回復力強化、リソース利用効率の向上といったメリットを、既存のスキャン ワークフローを変更することなく自動的に享受できます。今後のロールアウト フェーズで、追加のテクノロジ スタックおよびペイロード タイプのサポートが導入される予定です。詳細については、「静的スキャンの構成」を参照してください。

新しいプログラム ダッシュボードおよびリスク エクスポージャー ダッシュボード

Fortify on Demand には、組織全体のアプリケーション セキュリティ態勢、スキャンの導入状況、リスク影響度、および使用権の利用状況を包括的に把握できる、強化されたプログラム ダッシュボードおよびリスク エクスポージャー ダッシュボードが導入されました。

これらのダッシュボードは、セキュリティ責任者、コンプライアンス チーム、DevSecOps チーム、およびアプリケーション所有者に対し、セキュリティ プログラムの有効性を測定し、修復措置の優先順位を決定し、組織のリスクを軽減するために必要な可視性を提供します。詳細については、「ダッシュボード」を参照してください。

SAST スキャンのスキャン ポリシーの選択

Fortify on Demand では、SAST スキャンのスキャン ポリシーの選択がサポートされるようになり、組織は分析中に使用するポリシーを選択できるようになりました。この機能強化により、スキャン結果をより詳細に制御できるようになり、セキュリティ テストを開発ワークフローやリスク管理の目標に整合させるのに役立ちます。

スキャン ポリシーは、Fortify on Demand のユーザー インターフェイスと API の両方を通じて設定できます。使用可能なポリシーは次のとおりです。
- セキュリティ
- クラシック
- DevOps
- FoD レガシー (既定、既存の Fortify on Demand スキャン エクスペリエンスと後方互換性を維持) が含まれます。

詳細については、「静的スキャンの構成」および「リリース スキャンの表示」を参照してください。

強化された Debricked オープン ソース スキャンの結果

Fortify on Demand では、Debricked のスキャン結果からマルウェア インジケーターや既知の悪用された脆弱性 (KEV) 情報が表示されるようになり、オープンソースのリスクに対する可視性が向上しました。

これらの機能強化により、セキュリティ チームと AppSec チームは、リスクの高いオープンソースの脆弱性を、Fortify on Demand 内で直接特定、優先順位付け、および修復できるようになります。

詳細については、「オープン ソース ソフトウェア構成分析」および「[問題] ページのフィルタリングとグループ化」を参照してください。

アプリケーションの同時動的スキャン

Fortify on Demand では、動的スキャンの同時実行がサポートされるようになりました。これにより、組織は同じアプリケーションの異なるリリース間で複数の動的スキャンを同時に実行できます。管理者は、新しいテナントレベルの設定を通じて、アプリケーションごとに許可される動的スキャンの同時実行の最大数を設定できます。これにより、チームは並行する開発ストリームをより効率的にテストし、スキャン スケジューリングのボトルネックを軽減できます。この機能は、動的自動を除くすべての動的評価タイプに適用されます。詳細については、「動的スキャンの構成」を参照してください。

動的サブスクリプションの手動による開始

Fortify on Demand では、承認されたユーザーが [動的スキャンの設定] ページから直接サブスクリプションを開始することで、動的サブスクリプションの使用権をより適切に管理できるようになりました。これにより、プレースホルダーのスキャンが不要になり、使用権の消費が簡素化され、アプリケーションのオンボーディングと CI/CD のセットアップが迅速化され、権利の使用状況に対するより高度な制御と可視性が得られます。詳細については、「アプリケーション スキャンの表示」を参照してください。

モバイル+ サイト ツリーのダウンロードのサポート

Fortify on Demand では、手動テスト アクティビティで検出されたサイト ツリーをユーザーがダウンロードできるようにすることで、モバイル+ 評価におけるアプリケーションのカバレッジに関する可視性が向上しました。この機能は、チームがアプリケーションのテスト済みの領域と評価範囲をより深く理解するのに役立ちます。詳細については、「進行中のスキャンに対するモバイル スキャンの設定の編集」を参照してください。

グローバル フィルタリング機能の強化

今回のリリースでは、[アプリケーション]、[自分のリリース]、[自分のスキャン] の各ページにおいて、表示機能とフィルタリング機能が新たに強化されました。ユーザーは、リリースやスキャンを所有者や開始者の詳細に基づいて表示、並べ替え、フィルタリングできるようになり、責任と運用状況の可視性が向上します。さらに、[アプリケーション] ページに Aviator 関連のフィルタリング条件が追加され、Aviator の有効化状況やステータスに基づいてアプリケーションをより簡単に識別できるようになりました。詳細については、「[アプリケーション] ページのフィルタリング」、「[自分のリリース] ページのフィルタリング」および「[自分のスキャン] ページのフィルタリング」を参照してください。

レポート機能の強化

今回のリリースでは、Fortify on Demand のセキュリティ レポート ワークフロー全体における自動化と可視性を向上させるレポート機能の強化が導入されています。

主な更新内容は次のとおりです。
- オープン ソース スキャンの完了時に OSS コンポーネント レポートを自動生成し、オープンソースのリスク レポートとコンプライアンス プロセスを効率化します。
- Fortify on Demand API を介して生成されたレポートがテナント ポータルの [レポート] タブに表示されるようになり、作成方法に関係なくすべてのレポートを一元的に表示できます。詳細については、「レポート」、「リリース レポートの表示」および「自動生成レポートのスケジュール」を参照してください。

データ エクスポートの強化

今回のリリースでは問題データのエクスポート機能が拡張され、脆弱性の履歴やオープンソース コンポーネントのソースに関する詳細情報が追加されました。

主な更新内容は以下のとおりです。
- 監査履歴を個々の問題ごとにエクスポートできるようになり、レビューアはエクスポートされたデータから直接ステータス変更や監査イベントを追跡できます。
- 該当する Sonatype の検出結果にファイルの場所の情報が含まれるようになり、チームはコードベース内の脆弱なコンポーネントの所在を特定できます。

詳細については、「データ エクスポート」を参照してください。

監査テンプレートの更新

今回のリリースでは、監査テンプレートの機能が拡張され、「情報」および「ベスト プラクティス」の重大度カテゴリのサポートが追加されました。

セキュリティ チームは、グローバル監査テンプレートとアプリケーション監査テンプレートの両方で、これらの重大度レベルに基づいて監査ルールを設定できるようになり、静的、動的、モバイル、オープン ソースのスキャン結果全体にわたって、より包括的で一貫性のある問題管理が可能になります。

詳細については、「グローバル監査テンプレートの作成」および「アプリケーション監査テンプレートの作成」を参照してください。

API の更新

OpenText Fortify on Demand API に対し、次の更新が行われました。

DAST API の 2 要素認証 (2FA) のサポート

Fortify on Demand DAST API は、2 要素認証 (2FA) をサポートするようになり、最新の認証メカニズムで保護されたアプリケーションに対する動的スキャンの設定と自動化が可能になりました。

サポートされている認証方法は次のとおりです。
- 電子メールベースの 2FA
- TOTP (時間ベースのワンタイム パスワード)

この API は、TOTP QR コード処理と安全な資格情報の管理もサポートしています。これらの機能強化により、多要素認証を必要とするアプリケーションの自動化が簡素化されるとともに、認証データの安全な取り扱いと既存の API ワークフローとの完全な後方互換性が維持されます。

詳細については、「動的スキャンの構成」および「API エクスプローラを使用した API ドキュメントの表示」を参照してください。

1.4. 既知の問題

PDF 出力に関する問題

説明

OpenText Fortify on Demand (FoD) の顧客向け PDF ドキュメントには、目的のセクションまたはページに移動しない相互参照リンクが含まれています。ユーザーがこれらのリンクを使用して参照コンテンツにすばやくアクセスするには、場合によってはドキュメント内の情報を手動で見つける必要があります。

回避策

PDF ビューアの検索機能を使用して、参照先のセクションを手動で見つけてください。

ステータス

この問題は調査中です。

For more info, visit https://docs.microfocus.com